

1 テーマ名

栽培技術の習得に効果的な動画マニュアルの作成手法を考える。

2 目的

産地では高齢化が進み、高い技術力を持った経営体がりタイヤする一方、新たに新規就農研修生や新規就農者が参入する状況があり、技術伝承が喫緊の課題となっている。デジタル化が進む中、様々なビジネスシーンで、紙面に代わり動画を活用したマニュアルで技術伝承が行われつつあり、農業分野でも動画マニュアルを活用しようとする動きが出てきている。

伝承の視点で効果的な動画マニュアルを作成する上でのポイントを整理し、実際にキクとブドウで動画マニュアル（プロトタイプ）を作成する。また作成したプロトタイプを検証し、動画マニュアル（完成版）の作成手法を整理する。

3 調査研究の内容

- (1) 紙面によるマニュアルとの比較（メリット、デメリット）
- (2) 他県における動画マニュアルの活用事例調査（現地調査）
- (3) 動画マニュアル（プロトタイプ）作成におけるポイントの整理
- (4) キクとブドウでの動画マニュアル（プロトタイプ）の作成（普及指導計画普及指導項目の活動）
- (5) 動画マニュアル（プロトタイプ）の検証による作成手法の整理

4 成果

他県農業学習支援システムの内容や運用状況から、動画を活用することで文字や口頭で伝わりにくい栽培技術を動きとして捉え、理解を早める効果があることを知ることができた。

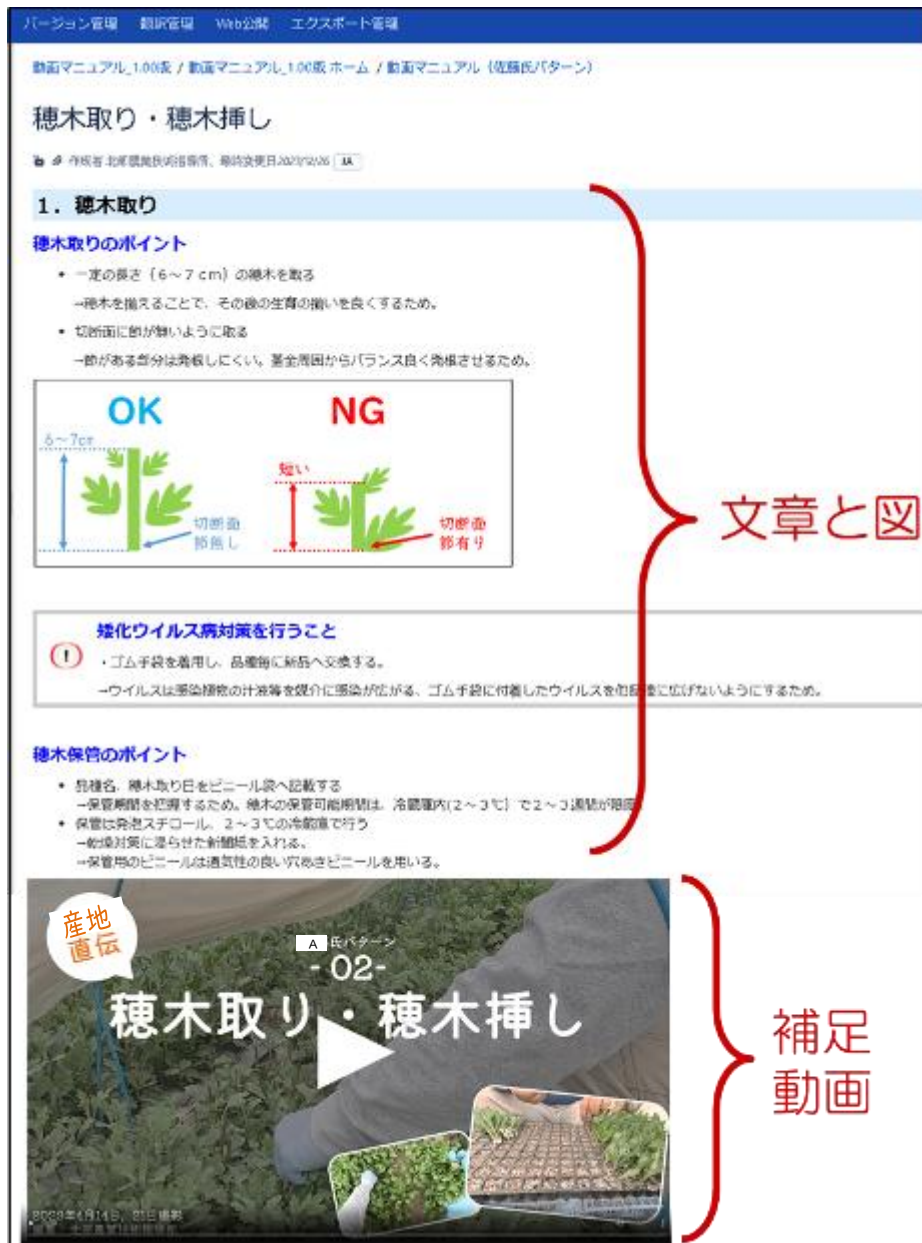
しかし、動画ですべての栽培技術を表現したマニュアル作成を行うことは、多大な労力と時間が必要となることから、従来のように文字や画像、図表により栽培技術を表現することに加え、文字や口頭では伝えづらい部分のみ短い動画を使い補完することが現実的であると結論づけることができた。

動画編集の方法については、短い動画であればタブレットで編集可能なPhotron（株式会社フォトロン）が適しており、マニュアルの公開方法については、パスワードによる管理やダウンロードの禁止等のセキュリティ対策が取れ、動画の貼付も可能であり、局で契約しているデジタルツールWikiWorks（ナレッジオンデマンド株式会社）を活用することが適していることもわかった。

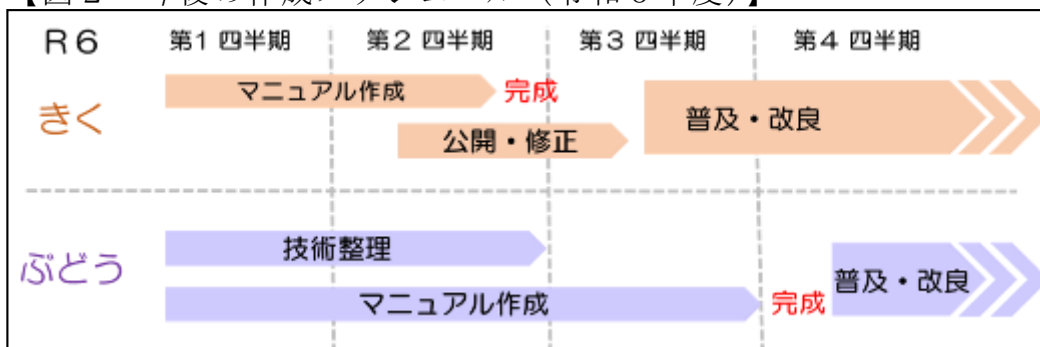
ネット環境を利用したデジタルツールにより、マニュアルを公開するメリットとしては、スマホやタブレット等で、場所や時間を問わず視聴でき、一時停止やスロー再生、回数制限もなく、理解できるまで視聴が可能であることが挙げられる。

上記の結論後に、作成した動画マニュアル（プロトタイプ）は図1のとおり、またキクとブドウにおける完成版の作成スケジュールは図2のとおりである。

【図1 動画マニュアル（プロトタイプ：キク）】



【図2 今後の作成スケジュール（令和6年度）】



5 普及指導活動における活用方法

〇〇組合と〇〇グループにおける新規就農研修生、新規就農者や産地内での技

術の高位平準化の資料として活用する。

また、動画や WikiWorks を活用したマニュアル作成手法については、他指導所や関係課に対して適宜情報提供を行いながら、県組織へ波及させる（問合せや質問、意見について、所として真摯に対応を行う）。

6 留意事項

特になし。